

2022年10月14日



「ななつ星 in 九州」第2章～100年をこえる物語をつなぐ。～

客室では総久留米緋の寝衣で、より豊かな時間を

2022年10月15日から運行を開始する「ななつ星 in 九州」第2章では、客室で過ごす時間をより特別なものとするため、久留米緋であつらえた寝衣をご用意しました。

プロデュース及びデザインは、「ただいまからいきます」までのやすらぎのおうち時間を提案する Foo Tokyo（運営：Next Branders、所在地：東京都渋谷区、代表取締役社長：桑原 真明）さまに依頼。洗練されたデザインと着心地の良さ、そして地域の伝統を肌で感じるリラックスウェアで、ななつ星の旅にさらなる彩りを加えます。

■デザインおよびディテール

1 デザインのこだわり

「くつろぎ空間と交流空間」が備わった車両の特性に合うように、「社交服」をテーマにデザイン。

トップスはタキシードを由来とし、明治時代にはリラックスウェアとして定着した「ショールカラー」をモチーフに襟元のディテールを構築。ななつ星コンセプトカラーである古代漆色をパイピングやステッチに織り交ぜて表現しています。ボトムスのフロント部分に一直線に縫われたステッチは、線路をモチーフにしています。襟元のパイピングやボトムスのウエストを調整する腰紐で、ななつ星が地域とお客さまを繋ぐ「絆」を再現しました。

ななつ星での体験が100年をこえる未来まで長く輝き続けるように願いを込めて、ボタンにはななつ星ロゴを刻印しアクセントにしました。

ななつ星へのご乗車にあたっては様々なシーンにあわせたドレスコードがございますが、今回のデザインテーマにより、サロンスペース（2号車：サロンカー「木星」）が寝衣でも入室できることとなり、車内でより快適にお過ごしいただけます。

Foo
Tokyo Japan

2 素材のこだわり

車両に馴染む配色で、九州の地で作られた素材である久留米^{くろめがまし}紬を活用し、お客さまにリラックスしていただく生地感とやわらかさを重視しました。220年以上にも及ぶ伝統は、その歴史的、芸術的価値が高く評価され、国の重要無形文化財に指定されています。

制作は、創業昭和23年(1948)、約80年前の織機を20台稼働させ、福岡県八女市から伝統を発信している下川織物さまに特注で依頼。糸のアク抜き、糊付け、天日干しなど工程は30を超え、日々熟練した職人たちの手間ひまと情熱により維持されてきた美しい久留米紬です。

夏は涼しく、冬は暖かい、丈夫で洗うほどしなやかになるという使い心地の良さを、ご乗車のお客さまに永く伝えて続けて参ります。



SHIMOGAWA

